



Faculty of Dentistry
Tokushima University
50th years

特集

歯学部創立50周年

研究室へようこそ P4

大学院歯薬学研究部 歯学域 教授 山本 朗仁

最先端研究探訪 P5

大学院社会産業理工学研究部 社会総合科学域 教授 矢部 拓也

魅力ある授業 P7 徳島大学病院 講師 藤井 志朗

My Campus Life P8

生物資源産業学部 生物資源産業学科 3年 石川 美咲

医学部 医学科 4年 高山 良政

サークル紹介 P9

硬式テニス部 / 弓道部 / 軟式野球部 / 文芸部

財務レポート P11

ガレリア新蔵 / 徳大ニュース /

徳島大学×J-PEAKS ニュース P13

徳島大学基金 / 編集後記



皆さまには、平素から徳島大学の教育、研究、社会との共創活動に対しまして様々なご支援・ご理解を賜り、誠にありがとうございます。

徳島大学が将来にわたり「人、地域をはぐみ未来をつくる」活動を精進していくには、長期的に安定した財政基盤の強化、基金の充実が不可欠です。教職員はもとより、卒業生・修了生、学生のご家族をはじめ、個人、企業、団体などの皆さまにおかれましては、温かいご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



徳島大学
基金サイトは
こちら

徳島大学基金の取組

① TOKUSHIMA UNIVERSITY GIVING CAMPAIGN 2026を開催します

(2026年10月16日から25日まで)

今年で5回目となる「TOKUSHIMA UNIVERSITY GIVING CAMPAIGN 2026」を10月16日から25日まで開催いたします。本イベントは、全国の国公立大学で一斉に開催され、学生団体の支援を目的とした大規模なオンラインチャリティーイベントです。参加者は、特設サイトから学生団体を選んで応援票を投じるだけでなく、応援メッセージを送ったり、学生団体に寄付を行うことができます。参加する学生団体は、イベント期間中自らの活動についてSNS等で発信し、応援や寄付を募り、応援票に応じて支援金が分配される仕組みです。卒業生、本学関係者、地域の方など含めどなたでもご参加いただけます。ぜひ、本学学生団体への応援よろしくお願いいたします。



詳細はこちら



詳細はこちら

ご寄付をいただいた皆さま (寄付申込順) 2026年4月から6月までの間に、徳島大学基金にご寄付いただいた皆さまのご芳名を紹介させていただきます。ご支援、誠にありがとうございました。

三浦 光太郎 様 吉野 和嗣 様 山口 勝己 様 津村 庸成 様 橋爪 太 様 上田 茂 様 テック情報株式会社 様 森本 裕子 様
吉田 静代 様 小無田 陽子 様 奥本 真一 様 西良 美智子 様 隅田 直美 様 片山 和久 様 井上 実香 様 金子歯科医院 金子 秀兆 様
医療法人しおりヒルデンタルクリニック 米澤 智子 様 吉田 宗平 様 上岡 寛 様 藤崎 臣弘 様 原 剛志 様 吉田 幸司 様 天部 由香里 様
川又 均 様 高橋 佳代 様 井馬 喜代 様 中山 いくみ 様 大山 隆志 様 森本 春男 様 医療法人恵生会 渡邊 徹 様
山本歯科医院 山本 修 様 立石 善久 様 やまだ歯科医院 山田 真義 様 医療法人光翔会石川おとなこども歯科・矯正歯科 石川 正俊 様
梅原 和男 様 坂東 美和 様 正田 二郎 様 山本 龍 様 出口 博代 様 千々岩 佑香 様 うえやま歯科クリニック 上山 美穂 様
上田 喜雅 様 井上 尚也 様 堤 誠司 様 医療法人安田歯科理事長 安田 勝裕 様 西川 新 様 本郷 昌一 様 篠永 ゆかり 様
本多 宏史 様 徳島大学大学院顎機能咬合再建学同門会 様 広野 善丈 様

【お問合せ先】徳島大学経営企画部 大学経営企画課 未来創造室
Tel：088-656-9979 E-Mail：dosokikink@tokushima-u.ac.jp

編集後記

大学院歯薬学研究部 薬学域 薬品製造化学分野 教授 山田 健一

本号では、歯学部創立50周年の特集をはじめ、最先端の研究や魅力ある授業、学生たちのキャンパスライフ、課外活動などをご紹介しました。歯学部の半世紀にわたる歩みを振り返るとともに、最先端の研究に取り組む先生方、授業に情熱を注ぐ先生、キャンパスで日々を楽しむ学生たちの姿に触れ、徳島大学の「今」を身近に感じていただければと思います。

節目は、過去を振り返るだけでなく、これからを見つける機会でもあります。本号を通じて、普段はなかなか知ることのできない大学の一面に触れていただき、徳島大学の歩みと現在、そしてこれからに思いを寄せていただく機会となれば幸いです。

徳島大学では、学生や研究者の活動が充実していくよう引き続き寄り添い支援していきます。今後も、徳島大学の取組及び徳島大学基金の充実にご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



徳島大学基金
寄付者のご紹介

徳大広報とくtalk No.205をお読みいただきありがとうございます。
ご意見ご感想は下記にお寄せください。
発行：国立大学法人徳島大学法人運営部総務課広報室
〒770-8501 徳島市新蔵町2-24
Tel: 088-656-7646 E-mail: koho@tokushima-u.ac.jp
URL: https://www.tokushima-u.ac.jp/about/publicity/toku_talk
発行日：2026年10月 本誌は年4回(4月、7月、10月、1月)発行



アンケートは
こちら



とくtalk
バックナンバー





口腔から、全身の健康を支える。

四国唯一の歯学部が歩んだ 半世紀と未来への展望

歯学部長
湯本 浩通（ゆもと ひろみち）



昭和51年（1976年）、四国唯一の歯学部として誕生した徳島大学歯学部は、2026年に創立50周年を迎えます。約2500名の卒業生を輩出し、地域歯科医療を支える拠点として歩んできた半世紀。その歩みの中で、国公立大学で西日本唯一となる歯科衛生士と社会福祉士のWライセンス取得を目指す教育や、AI・DXを活用した先進的な研究にも取り組んできました。次の50年に向けて「口腔から全身の健康を支える」をテーマに、未来を描く徳島大学歯学部の展望について、湯本浩通学部長に伺いました。

地域の期待を背負い、 四国唯一の歯学部として誕生

徳島大学歯学部は昭和51年（1976年）、当時深刻だった歯

科医師不足と地域格差の解消を掲げ、四国で唯一の歯学部として設置されました。創設当初は設備も不十分でしたが、関係者の尽力により教育・研究環境が整備され、これまでに約2500名の卒業生を輩出してきました。現在では、徳島県歯科医師会様からの情報に基づきますと、同会に所属する歯科医師の4分の1以上を本学部出身者が占めるなど、名実ともに地域医療の柱へと成長を遂げています。

日本初、Wライセンス教育で 超高齢社会を切り拓く

50年の歩みにおける大きな転換点で、2007年の「口腔保健

学科」の新設です。深刻な歯科衛生士不足という課題に対し、単なる技術者の養成に留まらず、西

本の国公立大学で唯一「歯科衛生士」と「社会福祉士」のダブルライセンス取得を目指すカリキュラムを導入しました。超高齢社会において、医療だけでなく社会保険制度や行政の仕組みを理解し、多職種と連携して地域全体を支えることのできる人材を育成しています。

「治す医療」から「予防する医療」そしてAI活用、DX化へ

研究分野もこの半世紀で劇的な進化を遂げています。かつての病態解明を中心とした研究から、現在は遺伝子解析や分子レベルでの原因究明に基づいた「予防・早期介入」へとシフトしています。さらに、iPS細胞を用いた再生医療や、AIを活用した画像診断支援、口腔内カメラとデジタルデータを活用した歯科補綴物の作製など、最新技術を臨床現場へ応用する研究が加速しています。



口腔から全身へ
次の50年に向けた
「命を衛る」取組

湯本学部長は、次の50年を見据えたテーマとして「口腔から全身の健康を支える」を掲げています。口は栄養摂取の入り口であり、その健康を維持することは生涯にわたる全身の健康管理に直結します。

そして南海トラフ巨大地震などの災害時における口腔ケア体制の構築に力を入れます。避難生活で

の誤嚥性肺炎リスクを低減させるための人材育成や、AIを用いた歯科情報による身元確認システムの整備など、「命を衛る地域貢献」を喫緊の課題として進めていく方針です。

創立50周年記念事業の開催

令和8年（2026年）11月21日・22日には、創立50周年記念事業が盛大に開催されます。国際シンポジウムやホームカミングデーに加え、市民公開講座では「除菌消臭成分MA・T[®]」や「歯生え

薬」の研究など、最先端の知見が共有される予定です。徳島大学歯学部では「未来を育てる教育」「世界を拓く研究」「命を衛る地域貢献」を3つの柱に掲げた基金を設立し、教育環境のさらなる充実とイノベーションの創出を目指しています。

50年にわたり築いてきた地域や同窓生との絆を糧に、徳島大学歯学部はこれからも口腔保健の先駆者として、未来の歯科医療を切り拓き続けます。

50年目の徳大歯学部を知る

4つのポイント！

1 四国唯一の歯学部として、地域の健康を支える存在

学部創立から50年経つ現在も四国で歯学部がある大学は徳島大学だけ！地域の人々の健康と未来の医療を支える役割を担っています。

2 歯科衛生士・社会福祉士の受験資格が取得できる！

口腔保健学科では、歯科衛生士と社会福祉士の2つの国家試験受験資格を取得できます。両資格を取得できる国立大学は全国でも2大学のみ。歯科の専門知識に加え、人々の生活を支える視点を身につけ、地域医療や在宅医療など幅広い分野で活躍できる人材を育成しています。

3 医療の可能性を広げる、医工歯連携

学部の垣根を越えた連携により、健康課題解決につながる新しいアイデアを生み出しています。医学に加え、工学やデータサイエンスなど異分野の知識と技術を融合し、革新的な治療法や医療技術の創出、社会実装に挑戦しています。

4 世界からも注目される研究力！

健康な歯を削らない治療や口腔がんの新たな治療法、顎の再生医療、口腔感染症と全身疾患との関連性の解明など、国内外から注目される先端研究にも取り組んでいます。さらに、口腔領域で培った研究成果や技術を応用し、全身組織の再生医療や肺炎治療薬の開発を目指すなど、歯学の枠を超えた研究へと展開しています。

歯学部 沿革

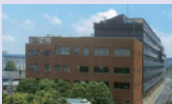
- 1974年 5月 歯学部創設準備室設置



- 1976年10月 歯学部設置



- 1977年 4月 歯学部歯学科第1回生受入れ
- 1977年10月 医学部附属病院歯科口腔外科として診療開始
- 1979年 3月 歯学部・同附属病院棟 新営竣工
- 1979年 4月 新営棟にて授業開始、歯学部附属病院設置



- 1983年 4月 大学院歯学研究科設置
(2004年4月大学院口腔科学教育部に改組)

- 2003年10月 歯学部附属病院と医学部附属病院を統合し、医学部・歯学部附属病院設置
(2010年4月大学直轄化に伴い、徳島大学病院に名称変更)

- 2004年 4月 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部設置
(2015年4月大学院医歯薬学研究部に名称変更)

- 2007年 4月 歯学部口腔保健学科設置
- 2011年 4月 大学院口腔科学教育部口腔保健学専攻(修士課程)設置
- 2015年 4月 大学院口腔科学教育部口腔保健学専攻(博士後期課程)設置
(2022年4月大学院口腔科学教育部が大学院口腔科学研究科に名称変更)



- 2026年10月 歯学部創立50周年

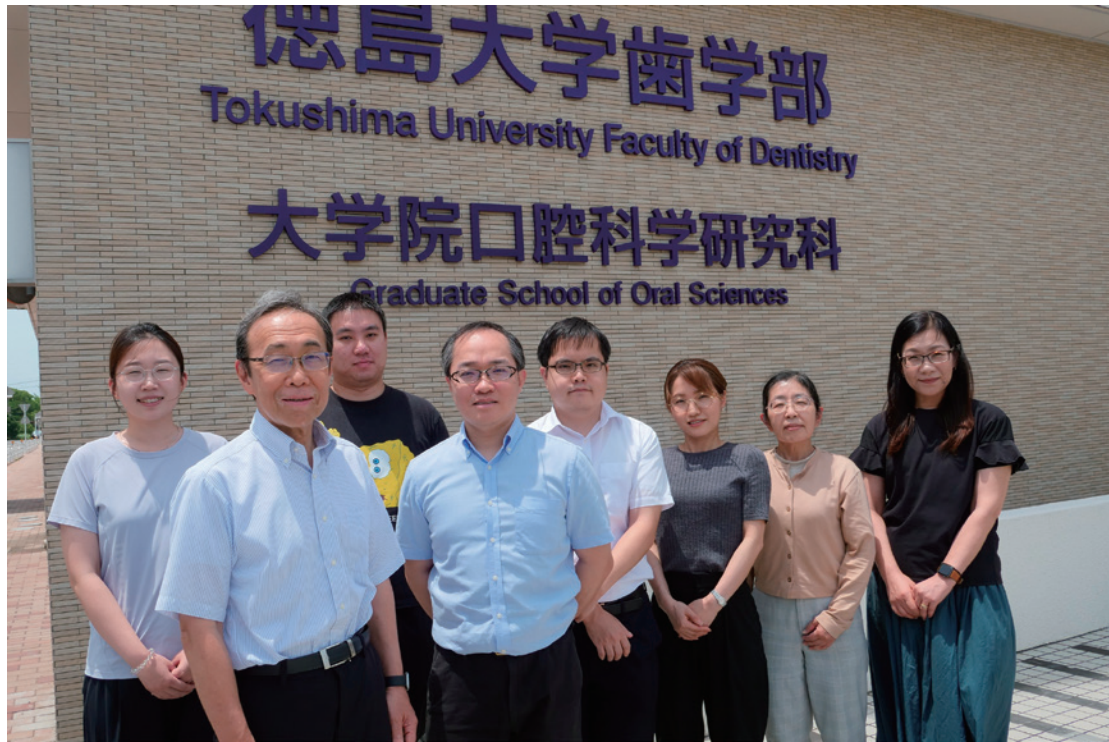


徳島大学歯学部創立50周年を記念し、11月22日(日)に大阪大学大学院の阪井丘芳教授をお迎えし、市民公開講座「未来の口腔ケアが変わる！除菌消臭成分MA・T[®]との出会いとその可能性」(参加無料)を開催いたします。詳細は二次元コードからご覧ください。



乳歯が秘めた“再生のチカラ”を、治療に生かす細胞を使わないCell-free再生医療

大学院医歯薬学研究部 歯学域 組織再生制御学分野 教授 山本 朗仁（やまもと あきひと） 研究室



大学院生の頃から山本先生（左から2番目）に師事し、現在も共に研究を進めている講師の加納史也先生（左から4番目）は、SHED-CMを放射線性口腔乾燥症の治療に応用する研究に取り組んでいます。また、脊髄損傷に対する幹細胞培養液の治療効果を比較する医学部の学生や、がんの骨転移治療に伴う骨吸収をモデルに研究する歯学部の学生など、日々研究に励んでいます。

再生医療というと、iPS細胞などの細胞を体内に移植する治療を思い浮かべる人も多いでしょう。しかし、細胞移植には、移植した細胞が体内に定着しにくいケースや、腫瘍形成、免疫拒絶などの課題があります。そこで山本先生らが目指しているのが、“Cell-free（細胞を使わない）再生医療”です。

その再生医療の要は、乳歯。乳歯は永久歯に生え替わる際に自然に抜けるため、これまで医療廃棄物として扱われてきました。しかし、乳歯の歯髄には高い組織修復能力を持つ幹細胞「ヒト乳歯由来歯髄幹細胞（SHED）」があり、山本先生は、このSHEDを培養したときに残る「無血清培養上清（SHED-CM）」に、強力な再生活性があることを見いだししました。

SHED-CMは、いわば「幹細胞がつくった再生のための液体」です。そこには血管の再生を促す因子や細胞を保護する因子、免疫を調整する因子など、さまざまなタンパク質が含まれています。それらが単独で働くのではなく、複数の因子が複雑に作用し合うことで、傷ついた組織が修復されやすい環境をつくるのだとか。

その効果を示す代表的な研究が、脊髄損傷モデルを用いた実験です。山本先生は、重度の脊髄損傷によって下半身が動かなくなったマウスにSHED-CMを投与し、歩行機能が回復することを確認しました！

「実験が成功したのなら、実用化も近いのでは？」と期待が高まりますが、「薬として使うには、“良いものをつくればいい”というわけではなく、毎回、同じ品質のものをつくることが重要」と話す山本先生。培養上清は細胞の状

態や培養環境によって成分が変化するため、治療薬に用いるには、「品質の均一性」を確保する必要があります。また医薬品として承認を得るためには、成分の特定、製造方法の標準化、安全性・有効性の確認などが求められます。そのため、現在は製薬企業などとも連携し、動物実験で示された再生効果を、将来の治療薬へつなげる研究が進められています。

このSHED-CMに含まれるタンパク質は2000～3000種類もあり、それぞれがどのように作用し、再生を促しているのか、まだ分かっていないことも多いといいます。そのため研究室では「1人1テーマ」を基本に、社会人学生や留学生など、異なる専門分野やバックグラウンドを持つ研究者が、それぞれの視点から研究に取り組んでいます。

脊髄損傷だけでなく、変形性顎関節症、ドライマウス、神経障害性疼痛など、治療が難しいさまざまな疾患で一定の効果を確認しているCell-free（細胞を使わない）再生医療。他に類を見ない独自の研究分野に注目が集まっています。



今春からは医学部生も研究室に加わっています。二人は現在、マウスの脊髄損傷モデルを用いた治療介入実験に取り組んでおり、実験に必要な手技や解析を手分けして行っています。

世界に挑戦する視野と、地域に寄り添う姿勢

その両方を大切にしながら、次の50年を築いてほしい …………… 徳島大学名誉教授 西野 瑞穂（にしのみづほ）

歯学部の礎を築いた挑戦の数々

徳島大学歯学部が開設された翌年の1977年に教授として着任した西野先生。当時は専用校舎もなく、古い建物を使った仮住まいからのスタートでした。

一回生が教養課程で学ぶ学生不在の2年間に教職員は専門課程の準備に奔走しました。西野先生も、歯科特有の材料や機材に不慣れな事務職員に代わり、ピンセットやバー・ポイントなど必要な物品を調達するため、用度係のような役割を担い、教育・診療の環境を一から整えていったと話します。

歯学部創設から現在までを振り返り、印象に残っている出来事として西野先生が挙げたのが、歯学部附属病院長を務めた際に主導した環境マネジメントの国際規格「ISO 14001」の取得と、1995年の阪神・淡路大震災での支援活動です。

なかでも災害時の支援活動は、現在、歯学部が50周年記念事業のテーマの一つに掲げる「社会・地域への貢献—命を衛る口腔ケアの推進〈災害・高齢社会を見据えた使命〉」にもつながっています。

西野先生は災害時、歯科医師、看護職、事務職による支援チームを編成し、被害の大きかった神戸市長田区の避難所へ派遣。歯ブラシなどを持たずに避難した人々への口腔衛生支援や、口腔内の状態悪化による二次的な健康被害の予防に取り組みました。こうした活動は南海トラフ巨大地震などの大規模災害を見据え、教育・研究と一体となって災害時の口腔ケア体制の強化を目指す、現在の歯学部の取組の原点となっています。

日本のみならず世界の歯科界を牽引する存在に …………… 蔵歯会（歯学部同窓会）会長 山村 昌康（やまむらまさやす）



初代歯学部長・竹田義朗先生のもと、徳島大学歯学部が産声を上げて早50年。“Time flies.（時が経つのは早い）” 創成期を担われた1回生の先輩方に将来の歯学部の舵を任された卒業生が各方面で幅広く活躍をされています。徳島大学歯学部の魅力は人と人とのつながりを大切にし、その「礎」を基軸とした教育を実践しているところです。

母校を思わない卒業生はいません。歯学部と蔵歯会は、まさに車の両輪です。どちらも同じ回転をしないと蛇行運転になります。

共に裾野を広げる活動を行うことが歯学部のさらなる活性化と蔵歯会の発展に繋がります。次の50年、歯学部創立100周年に向け、母校が日本のみならず世界の歯科界を牽引する存在であることを祈念申し上げます。

徳島大学歯学部創立50周年、蔵歯会会員一同、心よりお祝い申し上げます。誠にありがとうございます。

今号のより詳しい内容は、「とくだいウェブ」でご紹介します。ぜひあわせてご覧ください。



とくだいウェブ



徳島大学歯学部
創立50周年記念
事業基金

徳島大学歯学部創立50周年記念事業基金に関するお知らせ

徳島大学歯学部は、2026年10月に創立50周年を迎えます。四国唯一の歯学部として、地域に根ざし、歯科医師・歯科衛生士等の養成や、口腔科学の教育・研究・臨床を通じて、皆さまの健康を支えてきました。これからの時代に求められる医療・教育に応えるため、教育環境の充実、研究の推進、地域・災害への備えにも力を入れ、次の50年に向けて一歩ずつ取り組んでまいります。本基金は、その歩みを支えるための取組です。あたたかいご理解とご参画を、心よりお願い申し上げます。

住み続けたい街の“カッコいい生活”を創造する 実践的社会学で拓く、新しい地方の価値

大学院社会産業理工学研究部 社会総合科学域 地域科学分野 教授 矢部 拓也（やべたくや）

地方創生という言葉は
一般化したものの…

都市社会学・地域社会学を専門とする矢部先生。社会学の知識や調査手法を用いて地域の課題を発見・分析し、フィールドワークを通じて新たな価値を創造する「実践的社会学」を体現しています。

矢部先生の研究を『とく』でご紹介させていただくのは、実に10年ぶりです。この10年で大きく変わったことのひとつが、「まちづくり」や「地方創生」という言葉が一般化したことだといいます。今では大学教育や行政施策でも当たり前のように使われ、高校の「探究学習」でも、多くの若者が地域課題について考える機会を得ています。

人口減少や少子高齢化、担い手不足など、さまざまな課題を抱える地方にとって、「まちづくり」や「地方創生」への関心が高まっていることは、本来、歓迎すべき変化のように思えます。しかし矢部先生は、言葉が社会に浸透したことと、地域の未来を担う当事者意識が育っていることは、同じではないと指摘します。

「地方創生は本来、自分たちが暮らす地域をより良くするための

営みです。地方創生に関心をもち、積極的に活動している学生でも『10年後、徳島に住んでいると思うか?』と問うと、多くが首を横に振ります。自分が住むつもりのない街を良くしたいと語ることに、疑問を持たない。今の地方創生は、行政への提案やコンテストで評価されること自体が目的になっている側面がある。この実践と意識の乖離こそが、地方の衰退を招く構造的な問題」と指摘します。

「日々の買い物」は地域への投票

「地方が衰退していく理由は、誰かが悪意を持って何かをしているからではありません。むしろ、一人ひとりが合理的な選択を積み重ねた結果として、地域全体の衰退につながっています」。

中心市街地の衰退を嘆きながらも、利便性や価格を求めて郊外の大規模チェーン店で買い物をする。個人にとっては最適な選択であっても、その積み重ねが地域内で循環するはずだった消費を外へ流出させ、結果として街の衰退を加速させることになる」と話す矢部先生。

こうした状況を変えるために、先生が重視しているのが「地域内経済循環」です。

その実践の一つが、徳島信用金庫と連携した取組です。新社屋のオープンスペースをゼミで活用し、学生たちが大学の外に出て地域の中で学ぶ機会をつくっています。

「大学の中だけで講義を完結させず、街に出てゼミを行う。その後、近くの飲食店で食事をすれば、地域にお金が落ちる。そうした小さな実践の積み重ねが、街の活力につながっていきます」。

経済学では、日々の買い物をどこでするかという行動を、その街への「投票」と捉えることがあるといいます。何気ない日常の選択も、地域の未来を形づくる一票。一人ひとりの小さな行動が地域を支えています。



矢部先生は移動には車を使わず、折りたたみ自転車「ミニベロ」を愛用。全国の愛好家やメーカーと連携し、ディーラーズミーティングなどを徳島で開催しています。また、「まちごとファクトリー」の実践講座や徳島県立池田高校や城東高校などでの探究学習サポート、スポーツを軸とした地域活性化プロジェクトの他、徳島県と徳島市が検討している「ウォーカブルな街づくり（新町橋通り歩道拡張プロジェクト）」などにも関わっています。

サイクルツーリズムで
「新しい地域文化」を創造

自治体などと連携し、実践的なまちづくりに数多く関わる中で、矢部先生が今、最も力を入れているのが、「サイクルツーリズム」＝豊かな自然や歴史、食を自転車で巡る体験型観光」です。

徳島県吉野川市の自転車登坂競技「Mt.高越ヒルクライム」の企画・運営に加え、今年は、8月16日に鴨島駅前中央通り商店街で開催された一夜限りの阿波踊り「2026 かもじま阿波おどり」のプレイベントとして「YOSHINOAWA クリテリウム」を企画しました。

「クリテリウム」とは、市街地

などに作られた1周1〜5km程度の短い周回コースを、何度も回りながら順位を競う自転車レースのこと。「YOSHINOAWA クリテリウム」は自転車競技連盟所属選手らが一夜限りの阿波踊りを控えた鴨島駅前通りをクリテリウム方式でデモ走行するというプログラムです。

阿波踊り会場を自転車で行くという、かなり意表をついた組み合わせですが、「地方にも、これくらいのダイナミズムが必要」という矢部先生。

こうしたアイデアの背景には、都市社会学者フィッシャーの「サバカルチャー理論」という理論的な支柱があります。フィッシャー

由に活動できる場所（オープンスペース）をつくっていく。そうすることで、都会をまねるのではなく、地方ならではの「カッコいい生活」が可能になると思います。

「まちづくりの核となるのは、その地域で生きる実践者」という考えに共鳴し、研究室には現在、2名の博士課程の学生が在籍しています。ひとりには、「せとうち観光専門職短期大学」の助教で、四国水族館の立ち上げにも携わった人物。水族館を活用した地方創生をテーマに研究しています。もうひとり

は、淡路島の「吉備国際大学」で助教を務める研究者で、海藻などの海洋生物を研究する傍ら、地域大学の教員として必要な地方創生やまちづくりの視点を学んでいます。

「うちの研究室では、研究者を育てるというより、地域での暮らしを楽しめる人を増やしたい」と話す矢部先生。こうした実務家や研究者が、それぞれのフィールドと研究室を行き来しながら地域づくりを実践し、地方ならではの魅力的なライフスタイルを自らつくり出していく。そうした人たちが地域に増えていくことで、「住み続けたい」と思える街が形づくられていきます。



「YOSHINOAWA クリテリウム」は、自転車を活用したまちづくりとサイクルツーリズムの推進を目的とする吉野川市の取組です。新たな地域文化の創造として注目されています。



「20260816 ノーカット 第一回鴨島クリテリウム 一夜限りの鴨島阿波おどり前」は youtube で視聴可能。

<https://youtu.be/hvs8qwdaxXA?si=GtAQkUO7yeklllye>

ゼミの卒業生が徳島信用金庫に就職したことをきっかけに、オープンスペースを活用した講座やゼミを開催。中小企業向けの金融商品を考案するなど、地元金融機関と連携した実践的な取組へと発展しています。



総合科学部では、学力だけでなく、地方創生にける情熱、これまでの実践や経験を評価する「地方創生型」の推薦入試がスタートしました。合格者は矢部先生も指導にあたる「地域デザインコース」に優先的に所属できます。「地域のために学びたい」「将来、地域に貢献したい」という想いと挑戦を応援する新しい入試制度です。



常三島キャンパス

螺旋連が生物資源産業学部優秀学生賞を受賞! 阿波踊りを通じて地域活性化にも取り組みたい

生物資源産業学部 生物資源産業学科 3年 石川 美咲（いしかわ みさき）



兵庫県出身で大学から阿波踊りを始めた石川さん。1年生の時には締太鼓、2年生ではうちわでの男踊り、3年生の今年は提灯での男踊りに挑戦!



今年の阿波おどりは「GIVING CAMPAIGN2025」の寄付により、連員増加により不足していた印籠やバチ等の備品を新調。「ご支援いただいた用具を身に着け、より一層完成度の高い踊りを目指したい」と話してくれました。

徳島大学生物資源産業学部において成績優秀な学生や、課外活動・ボランティアなどの学外活動で顕著な功績を挙げた学生・団体を表彰する「徳島大学生物資源産業学部優秀学生賞」。令和8年度、石川さんが連長を務める阿波踊り連「螺旋連」が、「徳島大学生物資源産業学部優秀学生賞(課外活動の部)」を受賞しました。

コロナ禍で60名まで減少した連員は、今年新たに約40名が加わり、現在は100名規模に。阿波踊り本番ではさらにOG・OBも加わり、学生連ならではの若さと勢いあふれるダイナミックな演舞を披露しました。大所帯をまとめるため、心がけていることは「みんなの意見を聞くこと。学業や他

のサークル活動とも両立しやすい環境づくりを意識しています」と話します。

螺旋連の活動を通じて各地のイベントに参加し、地域の人々と交流する中で、地域活性化への関心が高まったという石川さん。もともとは機能性食品に興味を持ち、生物資源産業学部へ入学しましたが、今は「地域活性化につながる研究がしたい」という思いも芽生えているのだとか。「就職活動も理系・文系の枠にとらわれず、幅広い職種を視野に入れて検討していきたい。地域に貢献できる仕事に就けたらと思っています」。



螺旋連 Instagram

<https://www.instagram.com/rasenren/>

蔵本キャンパス

1年間休学し、イギリスとインドへ留学 「国内で実力を養い、それを発信する力」の重要性を再確認

医学部 医学科 4年 高山 良政（たかやま よしまさ）



滞在していた病院のスタッフとボランティアの人たちと。



ロンドンでの体験記は『四国医学雑誌』第82巻1～2号 p49-54に掲載されています。

ロンドン大学本部。「トビタテ! 留学 JAPAN」に理想とする留学プランを提出し、採択されたことも留学を後押ししました。インド滞在後半3ヵ月分は「アスパイア奨学金」も活用。



1年間休学し、イギリス・ロンドンとインド・ケララ州へ留学した高山さん。もともと文化人類学に関心があり、本場イギリスで文化人類学などの社会科学を学ぶために、ロンドンに約3ヵ月間滞在しました。その後、インド最南端のケララ州にある緩和ケア専門病院で約6ヵ月間を過ごし、医療現場の見学やフィールドワークを行いました。

ロンドンでは大学での学びに加え、近隣の大学の研究者が主催する研究セミナーにも参加。渡航前は「高度な議論についていけないかも」という不安があったものの、質問や発表に対して前向きなフィードバックを受け、「努力を続け、将来的には第一線で活躍する研究者たちの輪に自分も加わるかもしれない」という自信を得たといいます。

こうした体験を通じ、「海外で活躍したいのであれば、まず日本でしっかりと実力を身につけることが大切だと実感しました。医学部はカリキュラムが過密で、長期留学を経験する学生はほとんどいません。だからこそ日本で何を学び、どのような経験を積み重ね、何を考えてきたかが将来海外で活躍するための土台になると感じました。また、どれほど実力があっても、それを相手に伝えるための語学力がなければ評価されません。自分の取組を論文などの形で客観的に示し、世界に向けて発信することも大切だと学びました」。ロンドンでの留学体験は徳島大学医学部等が発行する学術誌『四国医学雑誌』に掲載。インドでの体験は医学教育系学会誌への投稿として推敲を重ねています。



今年度の血液コースの講義は5月に終了したため、ミニレクチャーを取材させていただきました。ミニレクチャーは、臨床実習中の学生を対象に病棟で実施しています。5～6人を1グループとし、年間約20グループを担当。臨床実習での悩みや疑問はもちろん、将来設計やキャリアプランなど、学生との対話を大切にしながら幅広いテーマについて語り合っています。

血液内科医として日々の診療にあたる傍ら、医学部4年生を対象とした「白血球総論」「急性骨髄性白血病」「急性リンパ性白血病」「造血幹細胞移植」などの講義や、臨床実習生への少人数制ミニレクチャーを担当する藤井先生。「学生に興味を持って聞いてもらえる授業をしたい」という思いから、独自の授業スタイルを生み出し、学生アンケートでも高い評価を得ています。

講義の特長のひとつが薬剤やがん細胞を擬人化し、物語のように伝える手法です。例えば急性骨髄性白血病や造血幹細胞移植は、抗がん剤をヒーロー、がん細胞を怪獣に見立て、「ヒーローが怪獣にどう立ち向かうのか」というイメージで薬の働きを説明します。難しい医学知識も、身近なキャラクターやストーリーに置き換えることで、学生が楽しみながら理解できるよう工夫しています。

さらに、国家試験レベルの練習問題を講義の中に取り入れていきます。まず問題を示して「ここまでできるようにしなければいい」という到達目標を明確にした上で、解答に必要な知識や考え方を講義で解説します。そして最後にもう一度問題に挑戦すると、今度は解けるようになる。「分からなかった問題が解けた」という成功体験を積み重ねることで、学生の学ぶ意欲を引き出しています。

多忙な診療の傍ら、藤井先生が教育にも力を注ぐ背景には、「医療が高度化・複雑化する中で、一

失敗を恐れるあまり、挑戦することをためらってしまう学生も少なくありません。たと思いい通りにいかないことがあっても、さまざまな選択肢を模索し、そこで立ち止まらず、次の一步を踏み出してほしい」。そんなメッセージをいただきました。



講義開始当初は学生が居眠りしたり、途中退席することもあったそう。そこで自分が伝えたいことを詰め込むスタイルではなく、「感動とともに覚えてもらう」「参加してもらう」ことの大切さに気づき、試行錯誤を重ねながら、現在のかたちを築き上げたと話す藤井先生。

人の医師ができることには限界があります。患者さんを支えるにはチーム医療が欠かせない。そのためには、次の世代を育てていくことが大切」という熱い思いがあります。また講義やミニレクチャーなど、折にふれて学生に伝えているのが「最初から一つに決めつけないこと」です。診療では、患者さんの体調不良の原因も、治療法も一つとは限りません。最初から答えを決めてしまえば、見落としや、より良い治療法を考える機会を失うことにもつながります。



楽しさと成功体験で学びを深める
藤井流 学生の意欲を引き出す授業

徳島大学病院 血液内科 副診療科長・講師 藤井 志朗（ふじい しろう）

軟式野球部



年間の活動

- 4月、5月 四国地区春季リーグ戦
- 6月 中四国大会
- 7月 関西・中四国交流会 (@岡山)
- 8月 全日本大学軟式野球選抜大会 (@長野)
- 9月、10月 四国地区秋季リーグ戦
- 11月 (秋季リーグ戦優勝の場合)
全日本大学軟式野球選手権大会 (@大阪)、
(秋季リーグ戦優勝以外の場合) 広島遠征
- 12月 OB戦
- 3月 関西遠征 (@大阪)

部活

- 月曜日・木曜日・土曜日 16:00～19:00
- 場所：総合グラウンド
- Instagram：tokudainanshiki
- 入部方法：練習見学、インスタDM等

主将アピール

主将 **村瀬 翔太** (むらせしょうた)
理工学部 理工学科 3年

私たちは週3回の活動で、勉強やアルバイトと両立しながら野球を楽しめる部活です。学年や学科の垣根を越えて仲が良いことも大きな魅力です!ただ楽しむだけでなく結果にもこだわり、今年度は4季ぶりに全国大会出場を果たしました!大学生活も野球も充実させたい人にぴったりな部活です!



Instagram



文芸部



年間の活動

- 4月 春号部誌制作、新入生歓迎会
- 5月 五月祭(春号部誌販売)
- 8月 文学フリマ参加(香川)
- 9月 夏合宿
- 10月 秋号部誌制作
- 11月 常三島祭(秋号部誌販売)
- 12月 忘年会
- 1月 文学フリマ参加(京都)

部活

- 毎週水曜日 18:00～
- 場所：通常活動日 4号館205号室、製本作業は部室
- X：@tokudai_bungei
- Instagram：tokudaibungei
- 入部方法：部活見学、原稿募集、各種SNSでの連絡

部長アピール

部長 **越智 海舟** (おちかいしゅう)
理工学部 理工学科 3年

私たちは「読書を通じた気軽な交流」を掲げて2024年に創設しました。普段の活動は、読書会や年に2回部誌を発行しています。部誌は文学フリマなどの全国的なイベントに参加しての販売も行っており、本を通じてたくさんの人たちと出会えます。本に少しでも興味のある方、ぜひ文芸部にお越しください!部員はいつでも学年問わず募集中です!



X



Instagram

硬式テニス部



年間の活動

- 4月 体験会
- 5月 春季中国四国大会、新歓
- 7月 四国インカレ
- 8月 インカレ個人
- 9月 全日本全国対抗テニス王座決定試合、夏季中国四国大会、寺内杯
- 12月 インカレ室内
- 2月 中四国新進大会、田北杯

部活

- 月曜日・火曜日・木曜日 16:30～日没、
土曜日 10:00～13:00
- 場所：総合グラウンドテニスコート 練習は自由参加!
- Instagram：josantennis
- 入部方法：練習見学、またはSNSに連絡を。



Instagram

弓道部



年間の活動

- 5月 四国リーグ戦、西日本学生弓道選手権大会、確定新歓
- 6月 徳島大学・香川大学交流戦、夏季徳島大学・徳島大学医学部対抗戦、
全日本学生弓道選手権大会個人戦予選
- 7月 全国大学弓道選抜大会、四国地区大学総合体育大会(四国インカレ)
- 8月 全日本学生弓道選手権大会(近的・遠的)
- 9月 国立四大学定期戦、夏合宿
- 10月 中四国学生弓道選手権大会、全徳島弓道大会、ハロウィン射会
- 11月 全日本学生弓道王座決定戦
- 12月 県下大学選手権大会、クリスマス射会、納射会
- 1月 初射会、三十三間堂大の全国大会
- 2月 中四国学生弓道新人戦、徳島大学・徳島大学医学部対抗戦
- 3月 九大学交流戦、国立三大学定期戦、卒部式

部活

- 月曜日・火曜日・木曜日 18:00～20:30、
土曜日 9:00～12:00
- 場所：通常練習 徳島大学弓道場
- X：@toku_kyudo
- Instagram：kyudo_tokushima.u
- 入部方法：練習見学後、入部の意思を伝えてください。初心者・経験者ともに大歓迎。



X



Instagram

サークル紹介

部長アピール

部長 **松田 悠晏** (まつだ ゆあん)
総合科学部 社会総合科学科 3年

硬式テニス部は、部員一人ひとりが主体性を持ち、自由なスタイルで活動できる活気ある部活です。今年は念願の1部昇格を果たし、チームとしてさらに成長しました。テニスに真剣に取り組みたい方はもちろん、仲間と充実した大学生活を送りたい方も大歓迎です。私たちと一緒に、1部の舞台で新たな歴史をつくりませんか?



Instagram

令和7年度財務諸表が文部科学大臣の承認を受けました。徳島大学は本学を支えてくださる国民の皆様方に透明性のある財務状況を提供しご理解をいただくことが重要な責務の一つと考えております。

令和7年度財務レポートは、令和7年度財務諸表をもとに作成しており本学の運営状況及び財務状態をお伝えするものです。

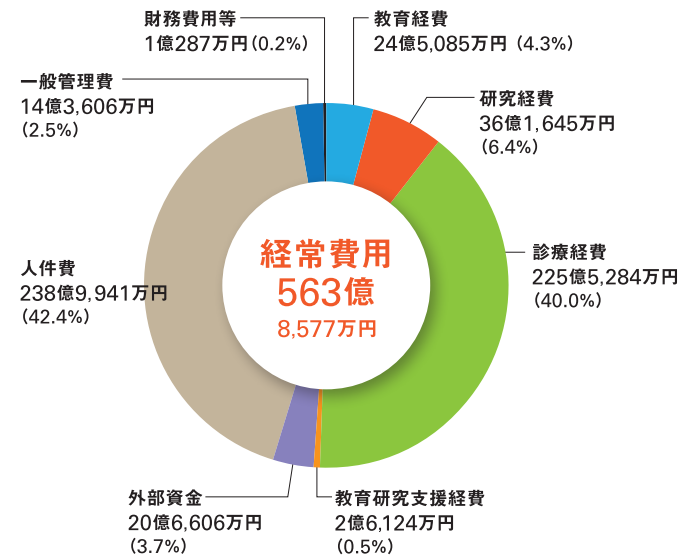


財務情報の
詳細

令和7年度
損益計算書の概要

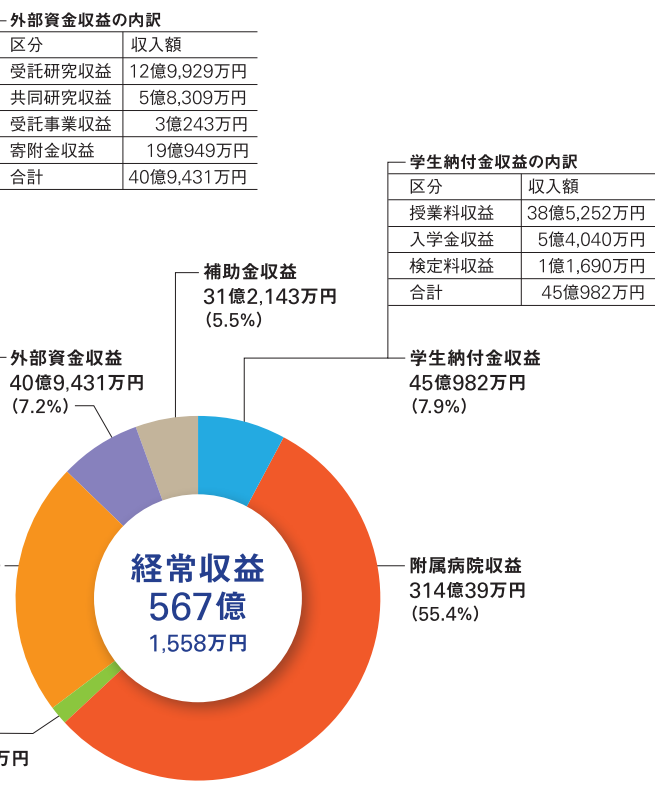
損益計算書は、事業年度内に徳島大学が実施した事業等により発生した全ての費用と収益を記載することによりその運営状況を明らかにしています。

経常費用の内訳



※単位未満を四捨五入しているため、必ずしも計は一致しません。

経常収益の内訳



経常費用は、前年度から40億9,708万円の増となりました。うち、影響が大きかったのは、人件費が人事院勧告の対応や定員昇給及び員数増等により前年度から11億6,444万円の増となり、診療経費が高度医療提供に伴う経費の他、物価・賃金高騰による業務委託費の増加により前年度から19億977万円の増となっております。

経常収益は、前年度から40億4,184万円の増となりました。うち、影響が大きかったのは、補正予算等により運営費交付金収益等が前年度から7億8,204万円の増、J-PEAKSや授業料減免費交付金等により補助金収益が前年度から11億7,027万円の増、高度医療提供により附属医院収益が前年度から18億4,254万円の増、知的財産権等収入の増加により雑益等が前年度から3億8,933万円の増となっております。

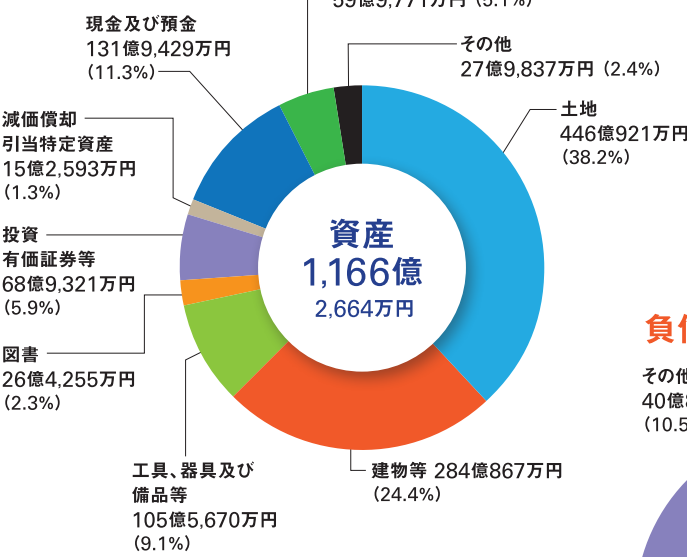
この結果、経常利益は3億2,981万円となりました。経常利益から、臨時利益、臨時損失を加減算し目的積立金取崩額を加算した当期総利益は3億4,949万円となりました。

令和7年度財務レポート ～透明性のある財政・運営～

令和7年度 貸借対照表の概要

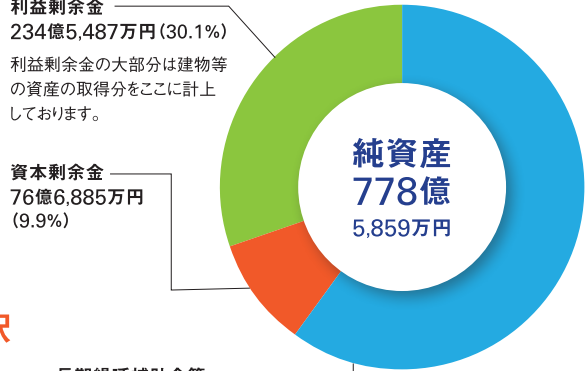
貸借対照表は、決算日(令和8年3月31日)における徳島大学の全ての資産、負債、純資産を記載することによりその財務状態を明らかにすることを目的としています。

資産の内訳

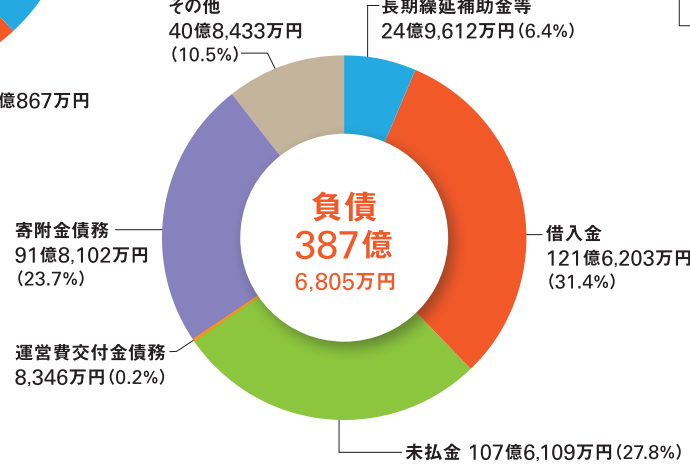


※単位未満を四捨五入しているため、必ずしも計は一致しません。

純資産の内訳



負債の内訳



資産は、前年度から50億8,591万円の増となりました。うち、影響が大きかったのは、病院情報システム等医療設備の増やJ-PEAKS等の補助金による教育・研究設備の増により工具器具及び備品等が前年度から28億6,222万円増加しております。

負債は、前年度から42億650万円の増となりました。うち、影響が大きかったのは、病院情報システム等のリース債務等が増加したことにより未払金が41億8,335万円増加しております。なお、借入金の支払いが進行したことにより、前年度から借入金が10億7,510万円の減となりました。

純資産は、前年度から8億7,941万円の増となりました。総合研究棟(化学・生物系)改修等の資産取得により資本剰余金が前年度から5億3,438万円増加しており、利益剰余金(当期総利益を含む)が前年度から3億4,503万円増加しております。

徳島大学の財務指標

活動性 学生1人当たりの教育経費 325千円 教育経費 ÷ 学生数 (7,544人) 「高等教育の修学支援新制度」で令和7年度からの対象者拡大により授業料免除費が増加したため、教育経費が前年度より多くなっております。 【参考】 令和6年度徳島大学265千円 令和6年度同規模大学平均263千円	活動性 教員1人当たりの研究経費 6,700千円 研究経費 ÷ 常勤教員数 (933人) ※受託研究、共同研究、科研費(直接経費)を含む。 【参考】 令和6年度徳島大学6,481千円 令和6年度同規模大学平均5,576千円	発展性 自己収入比率 72.83% 自己収入 ÷ 経常収益 【参考】 令和6年度徳島大学74.32% 令和6年度同規模大学平均72.80%	発展性 外部資金比率 8.53% 外部資金収益 ÷ 経常収益 ※外部資金収益には科研費を含む。 【参考】 令和6年度徳島大学10.35% 令和6年度同規模大学平均7.78%
---	--	--	--

安全性 流動比率 180.75% 流動資産 ÷ 流動負債 ※流動負債から運営費交付金債務、授業料債務、寄附金債務を除く。 短期的な負債に対する現金等の割合。短期的な支払能力や安全性の指標。数値が高い方(120%以上)が望ましい。	安全性 負債比率 49.79% 負債 ÷ 純資産 自己資本に対する他人資本の割合。返済能力や安全性の指標。数値が低い方(100%以下)が望ましい。	安全性 固定比率 122.75% 固定資産 ÷ 純資産 自己資本に対する固定資産の割合。長期的な安全性を図る指標。数値が低い方(100%以下)が望ましいが、本学は病院の施設等の整備で借入金を活用しているため、100%を超えています。しかし、借入金は計画的長期的に返済しております。	安全性 自己資本比率 66.76% 純資産 ÷ (純資産 + 負債) 総資本のうち自己資本が占める割合。財政状態の安全性や健全性を図る指標。数値が高い方(50%以上)が望ましい。
--	--	---	--

油圧機器専門メーカー

MIMURA

インターンシップ & 会社見学受付中



建機用ジャッキシリンダ
 シリンダ内径 | 130mm
 ロッド外径 | 100mm
 ストローク | 590mm
 用圧力 | 20.6MPa
 最高出力 | 伸び側274KN
 | 縮み側77KN

ミムラテックウ
 アイツ
 真面目は見えない
 見えないアイツを
 宿らせる

オリジナル短編動画
「ミムラテックウ」
スペシャルサイト

MIMURA
TRAINING STORY
ものづくりの出発点

オリジナル短編動画
「ミムラテックウ」
誕生秘話

インターンシップ
受付はこちら
マイナビ2028

——— 当社は香川県さぬき市で「油圧シリンダ」を主力とする油圧機器を専門に作っている会社です ———

三村鉄工株式会社
 〒769-2105 香川県さぬき市末371番地6 TEL:087-894-7788(代)

YouTube Website

ガレリア新蔵ニュース

第38回企画展
The 木器!
— 徳島大学が伝える木の考古学 —

徳島大学の蔵本・常三島・新蔵の3キャンパスは、遺跡の上に立地しており、これまでの発掘調査において多くの発見がありました。昨年の企画展ではその一端をご紹介します、ご好評をいただきました。今回は、徳島大学の遺跡から出土した木製遺物を通して、過去の人びとの暮らしと木工技術に迫ります。木器が語る豊かな歴史と、徳島大学が担う文化財の保存・研究の役割を広く発信します。この機会に是非お立ち寄りください。

第38回企画展開催期間
2026年11月2日(月)～2027年2月28日(日)

【展示会場】 徳島大学ガレリア新蔵展示室
徳島市新蔵町二丁目24番地 日亜会館1階
 【開館時間】 9時～17時
 【休館日】 2026年12月26日～2027年1月3日
 【問い合わせ】 徳島大学法人運営部 総務課広報室
 TEL: 088-656-7646
 E-mail: kohokakari@tokushima-u.ac.jp

Tokudai NEWS 徳大ニュース

学長予定者を決定しました
 国立大学法人徳島大学学長選挙・監察会議は、河村保彦徳島大学長の任期満了に伴い、学長予定者を次のとおり決定しました。
 赤池雅史（あかいけ まさし）
 現職・総括担当理事・副学長
 任期・令和9年4月1日～
 令和13年3月31日

「先端融合情報学プログラム大空間実験棟」が完成しました
 この度、大学・高専機能強化支援事業の一環として整備を進めてきた「先端融合情報学プログラム大空間実験棟」が完成しました。2026年7月28日、常三島キャンパスにおいて完成記念式典が行われ、河村学長をはじめ、先端融合情報学プログラムの連携大学、高専及び企業などの学内外関係者が出席しました。
 来賓として日亜化学工業株式会社高木取締役、株式会社レーザシステム土内代表取締役社長を迎え、本学関係者及び学生代表とともにテープカットを行い、新たな教育・研究拠点の完成を祝いました。
 式典終了後、会場ではモーションキャプチャを使ったドローン

の自律飛行デモンストレーションや大空間実験棟の見学を行い、AI・データサイエンスを活用した融合研究の拠点として整備された本施設への理解を深めました。さらに、徳島大学イノベーションプラザで活動する5つの学生プロジェクトが活動成果を紹介し、学生たちの創意工夫あふれる取組に出席者は熱心に耳を傾けていました。

本学では、本施設を活用しながら教育研究をさらに充実させ、高度情報専門人材の育成と地域社会の発展に貢献してまいります。

「徳島大学×千葉大学J-PEAKS 連携シンポジウム」を開催

2026年6月19日、千葉大学柏の葉キャンパスにて、第1回目となる「千葉大学×徳島大学J-PEAKS連携シンポジウム」が開催されました。J-PEAKS採択を機に、千葉大学と徳島大学は3月に連携協定を締結し、地域や研究分野の枠を超えて、お互いの強みや課題を共有しながら、「孤立せずに高め合う」新たな研究大学連携モデルの構築に挑んでいます。

当日は、会場107名、オンライン64名の計171名が参加し、学長・J-PEAKSリエゾン、URA(リサーチ・アドミニストレーター)、事務職員がそれぞれの立場から、これまでの取組と今後の展望について、参加者と共有する機会となりました。次回は11月4日に徳島大学で開催予定です。



左から千葉大学 中島リエゾン、横手学長／徳島大学 河村学長、安友リエゾン

NICHIA

Ever Researching
for a Brighter World
— より明るい世界のために限りなき研究を —

日亜化学工業株式会社
 徳島県阿南市上中町491番地
 TEL: 0884-22-2311

HPはこちら

